

令和3年度 学校図書館評価シート

足立区立古千谷小学校 校長 清澤 和人

1 学校図書館の現状（今年度末）

蔵書状況	① 蔵書数 12422 冊（蔵書基準冊数 10360 冊）／ 蔵書率 124%（前年度 109%）									
	② 新規購入図書 531 冊 ／ 廃棄図書 560 冊 ／ 増減冊数 -29 冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学8類
蔵書構成割合	1.1 %	1.1 %	5.6 %	6.3 %	11.1 %	4.1 %	3.6 %	7.3 %	4.6 %	55.2 %
*国基準	6 %	3 %	16 %	10 %	16 %	6 %	5 %	8 %	5 %	25 %
利活用の状況	① 開館時間：授業時 月・火・水・木・金 （前年度からの変更なし）									
	② 児童一人あたりの年間平均貸出冊数 43 冊（前年度： 42 冊）									
	③ 1か月に2冊以上読む児童 82%（前年度： 81.6%）									

2 学校図書館基本計画「学校図書館の目標・ねらい」の達成状況（今年度総括）

- ① 児童の読書に対する意欲はあるが、少し読書量が減った。
- ② 多様な資料から目的に応じた情報を選んで課題解決する能力を伸ばすことは、授業での図書館利用や調べる学習コンクールを通して取り組んだ。次年度の重点項目とする。
- ③ 図書委員児童による読み聞かせやおすすめの本紹介など様々な取り組みを通して、日常的に本に親しむ機会が増えた。
- ④ 学校図書館及び校内の図書に関わる環境を整えることができた。

3 今年度の重点指導事項・具体的取り組み、及び成果目標の達成状況

第1学年	① 読みやすい読み物に興味を持ち、楽しんで読書しようとする意欲を育てる。 ② 学校図書館の利用の仕方を知り、きまりを守って利用する態度を育てる。
今年度の成果目標	達成基準
① 学校図書館を使う授業により、本を手にする機会が増える。 ② 学校図書館の本を利用し、読書をする経験を重ねる。 ③ 学校図書館の利用の仕方について知る。	① 各クラス月1回以上、読書等の授業を学校図書館で行う。 ② 「読書マラソン」の取組を通して年間通算読書時間「1000分」を60%の児童が達成する。 ③ 学校図書館オリエンテーションを実施した学級100%
目標達成状況	
① 各クラス月1回以上、読書等の授業を学校図書館で実施した。 ② 「読書マラソン」の取組を通して年間通算読書時間「1000分」を約60%の児童が達成した。 ③ 学校図書館オリエンテーションを全ての学級が実施した。	
第2学年	① いろいろな読み物に興味を持ち、楽しんで読書しようとする意欲を育てる。 ② 学校図書館の利用の仕方を知り、きまりを守って利用しようとする態度を育てる。
今年度の成果目標	達成基準
① 自分の興味のある本を探して、読書することができる。 ② 図鑑や科学的な読み物について読書し、その内容を友達に伝えることができる。 ③ 学校図書館の利用の仕方を守りながら、読書することができる。	① 各クラス月2回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行う。 ② 「読書マラソン」の取組を通して年間通算読書時間「1000分」を60%の児童が達成する。
目標達成状況	
① 各クラス月2回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行った。 ② 「読書マラソン」の取組を通して年間通算読書時間「1000分」を約40%の児童が達成した。	

第3学年	① いろいろな読み物に興味を持ち、幅広く読書しようとする意欲を育てる。 ② きまりを守り、進んで学校図書館を利用する態度を養い、資料や情報を集めて活用できる力を育てる。
今年度の成果目標 ① 野球に興味のある児童が、他のスポーツの本にも親しむ等、自分の興味のある本だけでなく、それに関連する本についても読書する意欲を育てる。 ② 辞典や図鑑等から分かったことをまとめることができる。 ③ 学校図書館の利用の仕方を守りながら、読書ができる。	達成基準 ① 各クラス月2回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行う。 ② 「読書マラソン」の取組を通して年間通算読書時間「2000分」を60%の児童が達成する。 ③ 調べる学習コンクールに参加する学年児童の割合が65%以上
目標達成状況 ① 各クラス月2回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行った。 ② 「読書マラソン」の取組を通して年間通算読書時間「2000分」を約50%の児童が達成した。 ③ 調べる学習コンクールに参加する学年児童は1名のみだった。	
第4学年	① いろいろな読み物に興味を持ち、幅広く読書しようとする意欲を育てる。 ② きまりを守り、学校図書館を進んで利用する態度を養い、多様な資料や情報を収集・活用することができるようにする。
今年度の成果目標 ① 自分の興味のある本だけでなく、今まで興味のなかった本についても読書することができる。 ② 辞典や図鑑等から分かったことをまとめ、説明することができる。 ③ 学校図書館の利用の仕方を守りながら、読書ができる。	達成基準 ① 各クラス月2回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行う。 ② 「読書マラソン」の取組を通して年間通算読書時間「2000分」を60%の児童が達成する。 ③ 調べる学習コンクールに参加する学年児童の割合が70%以上
目標達成状況 ① 各クラス月2回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行った。 ② 「読書マラソン」の取組を通して年間通算読書時間「2000分」を約70%の児童が達成した。 ③ 調べる学習コンクールに参加する学年児童は6名であった。	
第5学年	① 適切な読み物を選び、読書を通して考えを広めたり深めたりしようとする意欲を育てる。 ② きまりを守り、学校図書館を進んで利用する態度を養い、計画的に資料や情報を収集し、適切に活用することができるようにする。
今年度の成果目標 ① 興味のある事柄について、適切な本や新聞等を選び、読書することができる。 ② 複数の本や新聞等から分かったことをまとめることができる。 ③ 学校図書館の利用の仕方について、より利用しやすい方法について考えることができる。	達成基準 ① 各クラス月1回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行う。 ② 「読書マラソン」の取組を通して年間通算読書時間「2000分」を60%の児童が達成する。 ③ 調べる学習コンクールに参加する学年児童の割合が75%以上
目標達成状況 ① 各クラス月1回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行った。 ② 「読書マラソン」の取組を通して年間通算読書時間「2000分」を約50%の児童が達成した。 ③ 調べる学習コンクールに参加する学年児童はいなかった。	

第6学年	① 適切な読み物を選び、読書を通して考えを広めたり深めたりしようとする態度を育てる。 ② きまりを守り、学校図書館を進んで利用する態度を養い、計画的に資料や情報を収集し、適切に活用することができるようにする。
今年度の成果目標	達成基準
① 興味のある事柄について、適切な本や新聞等を選び、読書することができる。 ② 複数の本や新聞等から分かったことをまとめ、説明することができる。 ③ 学校図書館の利用の仕方について、より利用しやすい方法について考え、友達に伝えることができる。	① 各クラス月1回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行う。 ② 「読書マラソン」の取組を通して年間通算読書時間「2000分」を60%の児童が達成する。 ③ 調べる学習コンクールに参加する学年児童の割合が75%以上
目標達成状況	
① 各クラス月1回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行った。 ② 「読書マラソン」の取組を通して年間通算読書時間「2000分」を約50%の児童が達成した。 ③ 調べる学習コンクールに参加する学年児童は6名であった。	

4 学校図書館環境整備に関する取り組み成果・効果

【蔵書・配架等に関すること】

- ① 既存の寄贈本や新規購入図書を受け入れ、登録作業を完了した。
- ② オリエンテーションのときに「学校図書館利用案内」を作成した。
- ③ 廃棄図書を早期に確定させ、蔵書構成を念頭においた新規図書購入計画を作成した。

【学校図書館支援員との連携・協働】

- ① 学校図書館オリエンテーションの全学級実施や読み聞かせ、紙芝居など、支援員の積極的な連携・協働に取り組んだ。
- ② 調べ学習をはじめ、授業に必要な教材や資料について積極的に支援員と情報交換を行い、用意した。
- ③ 学校図書館支援員やボランティアとの連携を深め、明るく楽しい学校図書館づくりを実践できた。

【その他】

- 地域ボランティアによる「お話会」は、感染症拡大防止のために中止した。
- 公立図書館との連携を密にし、図書資料の充実を図った。

5 学校図書館運営に関する全体評価（自己評価）

朝学習を読書タイムとして読書習慣の定着を図った。日常的な読書の習慣化を目指して学校全体で「読書マラソン」に取り組んだ。「100日完読」した児童や2000分達成した児童がたくさんいた。1か月に2冊以上読む児童が82%に向上するなど、読書活動は盛んに行われた。図書ボランティアや学校図書館支援員と円滑に連携し、読書環境の整備、活動の充実が図られた。支援員の企画による読書活動の充実が図られ、児童の読書の量が少し減ったが、読む本のジャンルに広がりが見られた。

6 学校図書館の取り組みに対する評価・要望等（外部評価）

今年度はコロナ禍で予定していた地域、保護者と連携した活動が中止となった。日常的な読書習慣の定着を図るために開かれた学校づくり協議会と連携して「読書マラソン」などの取組が行われ、一定の効果があつた。学校アンケート結果によると日常的に読書している児童は50.9%程度であり、前年度より若干下がっている。ほとんど読まない児童が約11.6%いる。文章の読み取りを向上させていくために、さらに読書習慣の定着を進めていきたい。

7 今後の展望 ―課題や問題点への改善・対応方針を踏まえて―

- ・家庭ではほとんど読まない児童が約11.6%いるので、学校内での読書活動の機会を確保する。火曜、水曜、金曜の朝読書を継続し、読書習慣の日常化を図り、長文読みの耐性を育成する。
- ・「読書マラソンカード」の活用を推進する。年間50冊または100日（2000分）読書達成する児童70%を目指す。読書をしたときには「読書マラソン」に記録をするように児童に声をかけていく。
- ・ストーリーテラーによる「語りの会」、図書ボランティアや図書館の方による「お話し会」、担任や支援員による「読み聞かせ」など、外部人材を活用して、多様な読書の機会を設け、読書意欲の向上を図る。
- ・多様な資料から目的に応じた情報を選んで課題解決する能力を伸ばす。夏季休業期間を活用して調べる学習コンクールへの参加を進め、図書館利用を促進する。